

地下鉄5万人増客の達成及び新たな増客目標について ～更に「地下鉄・市バス1日80万人」を目指します～

京都市交通局では、この度、平成28年度の地下鉄・市バスのお客様数（旅客数）が速報値としてまとまりましたので、お知らせします。

地下鉄は1日当たり37万9千人、市バスは1日当たり36万3千人、地下鉄、市バス両事業合計のお客様数は74万2千人となり、過去最高であった昨年度の72万5千人を更に上回る結果となりました。

全国の公営地下鉄で唯一の経営健全化団体となった本市地下鉄事業の経営を1日も早く健全化させるため、市会の御承認を得て平成22年3月に策定した「京都市高速鉄道事業経営健全化計画」において、平成21年度のお客様数32万7千人から平成30年度を目途に5万人増加させるという目標を掲げ、増客に向けて全力で取り組んだ結果、平成28年度のお客様数において5万2千人増加し、目標を2年前倒しで達成することが出来ました。

これに伴い、地下鉄の経営健全化は着実に進むとともに、本市における公共交通利用者も増加しましたが、地下鉄事業は依然として厳しい経営状況にあります。

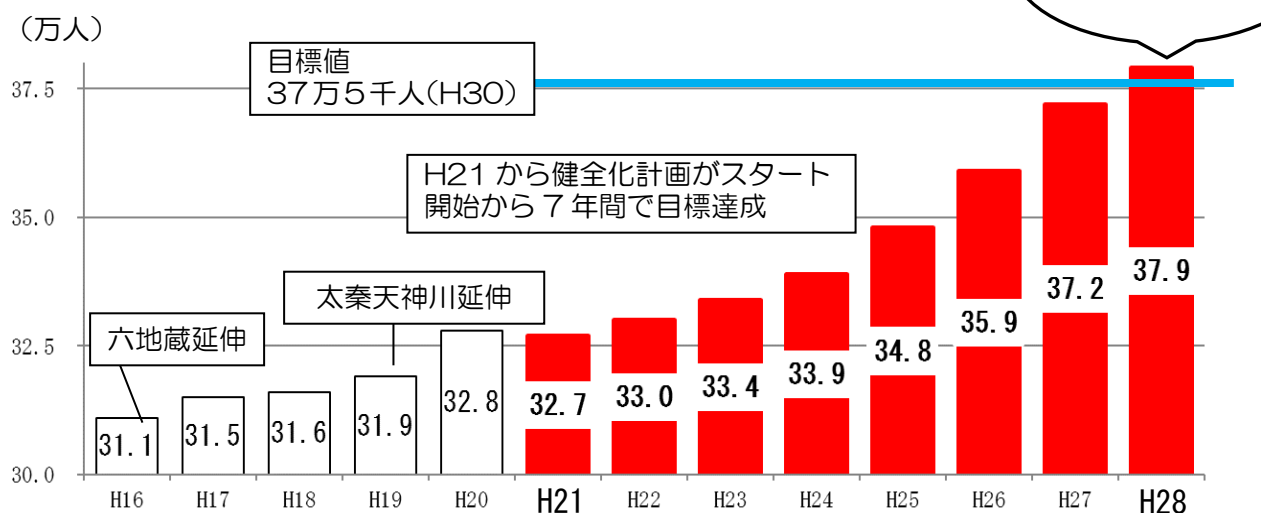
地下鉄事業における安定経営、市バス事業における自立経営の堅持を目指すことはもとより、「歩くまち・京都」の浸透や「健康長寿のまち・京都」の更なる推進を図るうえでも、市民の貴重な財産である地下鉄・市バスのネットワークを活用し、ひとと公共交通優先のまちづくりに、市民の皆様とともに、一層取り組んでいく必要があることから、今後は新たな目標として、「地下鉄・市バスお客様1日80万人」を掲げ、更なる公共交通利用者の増加に向けた取組を進めてまいります。

1 地下鉄5万人増客の達成

本市では、平成22年3月に策定した「京都市高速鉄道事業経営健全化計画」において、地下鉄の1日5万人増客を健全化策の柱の一つに据え、平成22年4月に、副市長をトップとする全庁組織「京都市地下鉄5万人増客推進本部」を立ち上げました。

この間、市民の皆様の御理解・御協力のもと、オール京都市で増客策に取り組んだことにより、計画を大幅に上回るペースでお客様は増加し、平成28年度において、平成30年度を目途に取り組んできた増客目標を2年前倒しで達成することができました。

【地下鉄の1日当たりのお客様数の推移（平成16年度～28年度）】



【5万人増客の要因】

- 地域の皆様や事業者の方々との協働による公共交通優先の「歩くまち・京都」の理念の浸透
 - 花灯路、京の七夕、京都マラソン、二条城における魅力的なイベント、京都市美術館における人気のある展覧会開催等の「駅及び周辺での観光・集客イベントの開催」による増客
 - 山ノ内浄水場跡地における京都学園大学京都太秦キャンパスの開設や岡崎地域の活性化、同志社大学文系学部の市内への移転をはじめとする地下鉄沿線における大学や商業施設の開業など、「地下鉄を核としたまちづくり」の進捗
 - お客様の利便性の向上と駅の賑わい創出を目的とした駅ナカビジネスの展開による増客
 - 地下鉄・市バス応援キャラクター「太秦萌」の創出をはじめとする「若手職員増客チーム」による斬新な取組による地下鉄の魅力向上と認知度アップ
- 以上の要因に加えて、観光MICE戦略に基づく観光振興の施策の大きな効果なども相まって、この結果に繋がったと考えています。

【お客様の内訳～定期券を御利用のお客様の着実な増加～】

地下鉄全体のお客様は、平成21年度と比較すると16.1%増加しました。そのうち、定期外のお客様が18.5%増加している一方で、定期券の御利用も15.9%と大きく増加しており、民間鉄道事業者との比較でも大変高い伸びとなりました。通勤定期は17.3%、通学定期は14.1%増加しており、「歩くまち・京都」の取組が着実に成果を挙げていると考えています。

《平成21年度と28年度の比較》

	21年度	28年度	増加数	増加率
地下鉄全体	32万7千人	37万9千人	5万2千人	16.1%
定期	12万7千人	14万8千人	2万人	15.9%
うち通勤	7万9千人	9万3千人	1万4千人	17.3%
うち通学	5万1千人	5万8千人	7千人	14.1%
定期外	17万6千人	20万8千人	3万2千人	18.5%

《他の民間鉄道事業者の定期・定期外の状況（平成21年度と平成28年度の比較）》

	定期外	定期	全体
地下鉄	18.5%	15.9%	16.1%
近鉄	7.9%	Δ4.9%	0.0%
京阪	3.4%	Δ0.1%	2.6%

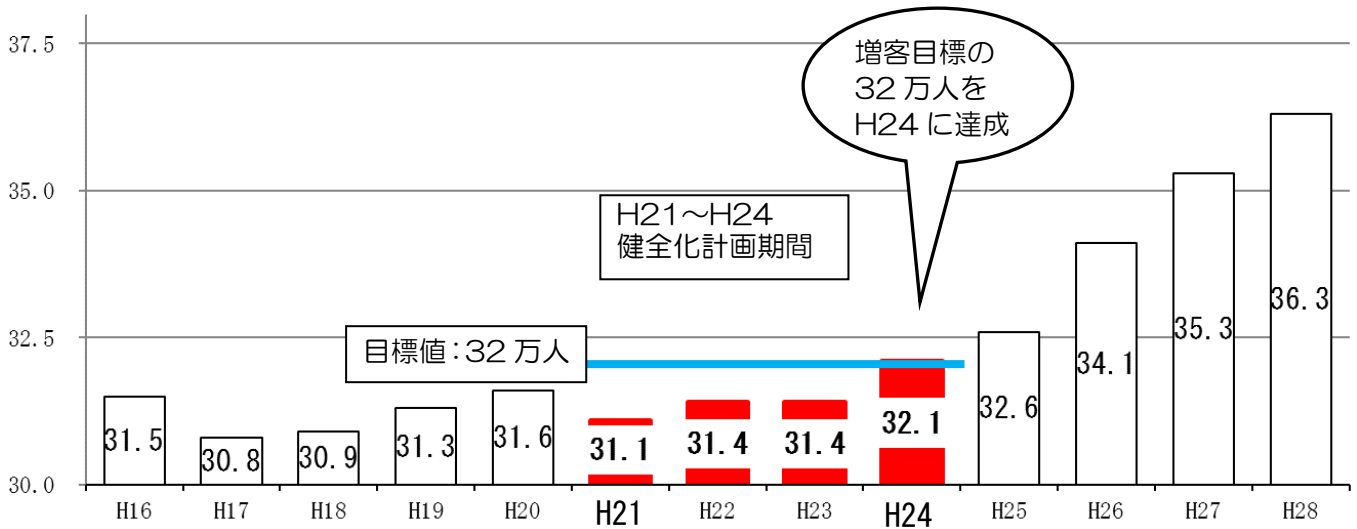
- 注1 民間鉄道事業者の数値は、各社のHP掲載の決算短信のお客様数をもとに増減率を算出
 2 民間鉄道事業者の定期外には、定期相当サービス（IC（PiTaPa）カードでの「区間指定割引」）の利用者が含まれている。

《自動車分担率の推移》（京都市独自調査）

自動車分担率 28年：21.8%
 独自調査を開始した24年度（23.0%）との比較では、1.2%の減となっている。

(参考1) 市バスの1日当たりのお客様数の推移 (平成16年度~28年度)

(万人)



《平成21年度と28年度の比較》

	21年度	28年度	増加数	増加率
市バス全体	31万1千人	36万3千人	5万2千人	16.6%
定期	6万8千人	8万7千人	1万8千人	26.3%
うち通勤	4万5千人	5万9千人	1万4千人	31.0%
うち通学	2万4千人	2万9千人	4千人	18.1%
定期外	16万9千人	20万3千人	3万4千人	19.8%

(参考2) 平成28年度のお客様数について

(1) 地下鉄・市バス1日当たりのお客様数 (平成28年度速報値)

・地下鉄・・・37万9千人 (平成27年度 371,882人)

・市バス・・・36万3千人 (平成27年度 352,936人)

地下鉄、市バス事業の1日当たりのお客様数合計74万2千人

(2) 平成28年度のお客様数の状況について

お客様数増加の主な要因として、地下鉄・市バスともに、岡崎エリアや梅小路公園エリアをはじめ、地下鉄・市バス沿線における集客施設や積極的なイベントの開催により、引き続き、多くのお客様に御利用いただくとともに、定期券を御利用のお客様数についても、前年度比で、地下鉄1.8%、市バス3.4%の増加となりました。

2 地下鉄・市バスのネットワークを活用した「歩くまち・京都」を推進するための新たな増客目標「地下鉄・市バスお客様1日80万人」を設定

(1) 新たな増客目標は今後3年間で“地下鉄・市バスお客様1日80万人”

地下鉄5万人増客の早期の目標達成に伴い、経営健全化は着実に進むとともに、本市における公共交通利用者も増加しましたが、地下鉄事業は依然として厳しい経営状況にあります。

引き続き、利便性を向上させながら、より多くのお客様に地下鉄と市バスを御利用いただき、経営の安定を図るとともに、市民の皆様「歩くまち・京都」や「健康長寿のまち・京都」の理念をより深く共感していただき、ひとと公共交通優先のまちづくりに向けて取組を進化させるため、今回、3年後の平成31年度までに「地下鉄・市バスお客様1日80万人」を達成することを新目標に掲げ、市民ぐるみの取組を進めてまいります。

現状：1日当たり74万2千人（28年度）⇒目標：1日当たり80万人

※目標達成には地下鉄・市バスで、あと5万8千人の増客が必要

100万人の市民の皆様が、毎月、地下鉄や市バスをあと2回多く御利用いただくことで、1日当たりのお客様数80万人が達成できます。

(2) 目標達成に向けた新たな体制を構築

民間団体が参画する新たな組織を設立し、民間と行政の共汗（協働）の取組を進めるとともに、現行の「地下鉄5万人増客推進本部」の体制を継承する全庁組織の取組により、地下鉄・市バスをはじめとする公共交通を活用したまちづくりを一層推進します。

ア 新組織「チーム『電車・バスに乗るっ』」

まちづくりの重要な担い手である大学や商業施設、集客施設をはじめとした民間事業者の皆様へ参画いただき、地下鉄・市バスを含む公共交通を活用した取組を企画・立案し、実践することで、京都のまちづくりの一層の発展に寄与していきます。

イ 庁内組織「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」

副市長をトップとする全庁組織として、各局区の連携をより深め、本市のあらゆる施策を動員し、地下鉄・市バスの増客を図る取組を推進します。また、斬新な活動で成果を挙げてきた「若手職員増客チーム」についても、民間事業者も参画する新組織と連携することで、取組の充実を図ります。